

A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society

Editor: Shigeko Igarashi, 5-10-5-103, Kitamachi, Warabi-shi, 335-0001 Tel/Fax 048-445-1527

New Year Dance 2008

日 時 2008年1月6日 (日) 13:00~16:30
 会 場 荒川区立第三瑞光小学校 体育館
 参 加 費 ¥1,000円

プログラム

WHITE COCKADE	Bk 5	ST ANDREWS FAIR	1982
GOTHENBURG'S WELCOME	Bk 37	PIPER & THE PENGUIN	SCOTIA
CORIAN STRATHSPEY	Bk 43	ARGYLL STRATHSPEY	Bk 35
FESTIVAL FLING	Bk 44	MIDNIGHT OIL	BKHD3
KENDALL'S HORNPIPE	GRADED	MAXWELL'S RANT	Bk 18
SAUCHIE HAUGH	LFLT 29	BALMORAL STRATHSPEY	Bk 22
DANCING IN THE STREET	Bk 42	PELORUS JACK	Bk 41
MIDDLETON MEDLEY	Bk 22	DUKE OF PERTH	Bk 1
		EX.REEL OF 51st DIV	Bk 13

ブランチ合宿 2008年2月22日~24日

1 ティチャーズ・スキルコース

日 時 2008年2月22日 (金) 12:30 受付
 2008年2月23日 (土) 11:50 解散
 場 所 国立女性教育会館 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
 指 導 者 ロバート・マッコーエン
 ミュージシャン バーバラ・マッコーエン
 定 員 40 名
 会 費 ¥11,000 円 東京ブランチ会員
 ¥12,000 円 東京ブランチ会員以外

申し込み締切 2007年12月20日 定員になり次第締め切ります

2 ウィークエンド・クラス

日 時 2008年2月23日 (土) 12:15 受付
2008年2月24日 (日) 12:00 昼食後解散

場 所 国立女性教育会館

指 導 者 ロバート・マッコーエン 中田多鶴子 (カントリーダンス)
バーバラ・マッコーエン (ミュージック)

ミュージシャン 小海弘子、村上美枝子

定 員 100名

会 費 ¥11,000円 (参加資格東京ブランチ会員のみ)

申し込み締切 2007年12月20日 定員になり次第締め切ります

1,2 共通事項 ○キャンセルされる場合は、速やかにご連絡ください
締め切り後のキャンセルは、必要経費を差し引いて後日返金となります
○問い合わせはセクレタリ 小杉由美子 043-422-1263 へ

寒さが厳しい時期なのでくれぐれも風邪をひかないよう、会場は木立の多い所です

今回のロバート&バーバラ・マッコーエン夫妻は1992年に来日されて、東京ブランチの合宿で素晴らしい指導をされたことを、記憶されている方もたくさんいらっしゃると思います。ロバートはカントリーダンスだけでなく、ステップダンスの指導もされます。ウィークエンド・クラス終了後、川崎千佳さん主催でステップダンスのクラスを開催いたします

ステップダンス・クラス

日 時 2月24日(日) 13:30~16:00

場 所 国立女性教育会館 音楽室

指 導 者 ロバート・マッコーエン

ミュージシャン バーバラ・マッコーエン

参 加 費 ¥2,000円 支払いは当日受付の際お願いいたします

レ ベ ル 興味のある方はどなたでも参加可能です

主 催 川崎千佳 03-5247-0960

RSCDS AGM Report 2007

3rd November 2007 Perth

マンスフィールド伯爵がまずソサエティのスクロール(功労賞)を下記の方々に手渡された。日本から岡田さん、イグザミナーとして日本の皆さんにもおなじみのヘレン・フレイムさんも今回受賞された。

ヘレン・フレイム (エア)

キャサリン・マクアダム (サンフランシスコ)

岡田昌子さん (東海)

フィオナ・ターンプル (リッチモンド)

エレナー・ヴァンダグラフ(シアトル)

デイヴィッド・カニンガム

(*メアリース・マクファーレンは AGM に来られなかったもので、地元での受賞となります。)

チアマン、アイリーン・ベネットの挨拶の中で、この一年間に SCD 界で著名な方が多く他界されたが、パースト・チアマンのジョージ・ローソンと試験・教育委員長だったデイヴィッド・ノーマンドハリスのお二人が特筆された。

委員選挙では、二つの委員会で委員が定員数に満たない状況であった。委員長もそれぞれ対抗者がなく選挙なしに承認された。唯一投票が行われたのは一般・財政委員会のみで、4人の候補者の中から次の三人:スー・ダケット、アード・ボード、ピーター・ライトが選出された。

今回の総会でもっとも大きな話題となっていたのが、**50%の会費値上げ案**で、下記のような白熱した討議が続いた。

- ・ 海外のブランチからは、一度に 50%の値上げは海外会員にとって、ポンド高と重なり 50%以上の値上げとなるため、会員を失うことになる・・・という声が強かった。
- ・ 英国国内では妥当・・・、ソサエティのサポート・・・という声が多かった。
- ・ いかに出費を節約しているか、その上でどのように会費の値上げが必要か・・・を提示した上で、会費値上げの検討をすべき・・・という意見も出た
- ・ 次期チアマンのアレック・グレイが現況のソサエティ出費を一人頭に割り出し、50%の値上げでは十分ではないことを強調。

本部職員給料・・・	4.70	雑誌・・・・・・・・・・	3.67
物件設備維持費・・・	2.56	ウェブ/データベース・	0.73
事務費/送料・・・	1.29	広報・・・・・・・・・・	0.92

監査/会議費	2.08	青少年/試験教育	0.68
回収不能消費税	0.73	著作権料/古文書管理	0.49

現在会費は£10だが、実際には£17.85が一人当たり使われている。

決議は以下の票数で、議案は通過した。

賛成 175 反対 62 棄権 2

次の議案はスコットランド内でのことであるが、重要なことであり今までいろいろな対策が試みられたにもかかわらず改善されないことから、最後の方法として年総会での討議となった。

スコットランドでは、青少年の教育にかかわる者は、全て検閲(Disclosure)を通らなければならない。その申請には警察の報告も含む極秘事項が記載されており、パスポートなどの重要書類を添付する必要がある。子供達にSCDを教えるティーチャーもこの認可が必要であり、RSCDSを通して申請をしていた。しかし、その過程でこの重要な書類が紛失してしまった。グラスゴウブランチでは二年間に三回も書類を提出しなおさなければならず、現在に至っても認可を得ることができずにいる。他のブランチでも同様で、これは本部の事務処理の緊急対応を要請するものである。

これを担当する機関にも問題があるようだが、一番の問題はソサエティ本部からブランチへのコミュニケーション不足が指摘された。

表決は、賛成 126 反対 19 棄権 87 で通過した。

マンズフィールド卿が、RSCDSのプレジデントになられて、30年となる。これを機にこの職を退かれる . . . ことになったということで、Dr アレスター・マククファージョンが新たにプレジデントに任命された。

マンズフィールド卿へはソサエティから感謝の気持ちとして、後日スクーン宮殿敷地内に植樹する木を贈呈するとのことである。

来年のAGM開催が11月8日パースであることが確認され、総会は17:25に終了した。

AGMに出席された篤子クレメントさんからの報告です。

運営委員会報告

2007年8月11日第3回運営委員会

(1) クラス担当アンケート結果と担当ティーチャー決定

2008年4月のアドヴァンスクラスはクレメント篤子さん主催国際フェスティバ

ルに協力するため中止とする。

(2) Exam 委員選出

今年中に委員会を立ち上げ、本格的な活動は来年から次期試験が終わる
2009年5月頃まで

(3) Weekend 2008 最終日午後のステップダンスクラスについて

川崎千佳さん主催 会場は引き続き使用。Weekend のお知らせに別紙
でステップダンスクラスのお知らせを同封する。

(4) Weekend 2008

講師の宿泊 21日・24・25日〔月〕朝まで

3月3日〔月〕成田見送り

スキルコース〔会場 大会議室、参加者 30名位の予定〕

金・午後、土・午前

金・夜〔ソーシャルダンシング〕

ウィークエンド

土・午後 3クラス

土・夜〔ソーシャルダンシング〕

日・午前 2クラス

クラス会場は体育館と大会議室〔キーボード〕

9月23日・24日 会場下見

(5) 岡田昌子さん受賞パーティ・東海ランチ主催オープンクラスの扱いについて

東海エリアでの開催の場合は東京ランチ会員に広報する。

報告および確認事項

1. 合同三役会議の報告

東京ランチ担当Exam(2008年2月実施) 11月末申込締切り

2. マガジン日本語版NO. 4 8月末完成予定

3. 本部関係 本部選挙の代理投票を例年通り篤子さんに依頼する。

2007年9月1日第4回運営委員会

(1) Weekend2008

予算見積もり、ピアニストの謝礼(クラス、Social Dancing)について

ステップダンスクラス……川崎千佳さん主催。ランチが案内、申込受付の協力を
をする。10月の委員会に出席してもらい、話し合う。

(2) ソーシャルダンシングクラスについて

10月27日(土)6:30-9:00

ティーチャー 鳥山チェアマン

会費 600円(非会員 800円)

10月のクラス案内に載せる

参加対象 インターミディエイト以上

(3)New Year Dance 2008

2008年1月6日〔日〕 13:00-16:30

MC、ミュージシャン、プログラム、会費について

(4)篤子さん主催国際フェスティバル

クラス案内で再度お知らせする。

報告および確認事項

大久保地域センターに登録

新大久保から徒歩10分 2ヶ月前の土曜日に抽選

大会議室ピアノ・鏡付き

2007年10月6日 第5回運営委員会

(1)Weekend 2008

① 予算見積もり 講師謝礼・会費

② ステップダンスクラスについて (川崎千佳さん出席)

その他

午後のクラス直後に施設使用にあたっての講習を受ける (全員参加)

会場 体育館、音楽室、大会議室の使用について

(2) New Year Dance 2008 について

対象 全会員

プログラム決定

役割分担 受付、壁プロ、手渡しプロ、総合司会、MC、会計、接待等

(3) クラス担当ピアニスト

アドヴァンスクラス 11月 村上美枝子さん、 12月 本守明美さんに依頼する。

(4) ブランチ賞候補について

11月末締切り 12月の委員会で検討。

(5) AGMの投票

General Purpose & Finance Committee 3名の投票

クラスで取り上げたダンス (2007年8月~10月)

アドヴァンス・クラス

8/04 土 担 当

小 山 かおる

ピアニスト

服 部 雅 好

1	The Lassie Wi' The Yellow Coatie	R 32-2C
2	The Jiwp Waist	S 32-3C
3	Twenty-First Of September	R 40-3C
4	The Earl Of Home	S 32-3C
5	Sunday Morning	R 32-4C

9/01 土 担 当	小 幡 正 明	
ピアノリスト	小 海 弘 子	
1	The Wee Ocean	J 32-2CRR
2	Pianist, Lilt it out	R 32-4C
3	Fugal Fergus	J 48-3C
4	May She Smile to Me	S 32-3C
5	London Reel	R 32-3C
6	Almond Eyes	S 32-3C

10/07 土 担 当	近 藤 幸 子	
ピアノリスト	市 川 洋 子	
1	Clachan	J 32-3C
2	Garple Burn	R 32-3C
3	John McAlpin	S 32-3C
4	The Maunby Reel	R 32-3C
5	Back to Back	R 32-3C

ソシアルダンス・クラス

10/27 土 担 当	鳥 山 豊 喜	
1	Pelorus Jack	J 32-3C
2	Stuttgart Strathspey	S 32-2C
3	The Falls of Rogie	R 32-3C
4	The Minister on the Loch	S 32-3Cs
5	Hamilton House	J 32-3C
6	The Princess Royal	R 28-3C
7	Miss Mary Douglas	J 48-3C
8	The Widows	S 32-3C
9	Margaret Parker's Strathspey	S 32-3C

インターミディエイト・クラス

8/06 月 担 当	林 浩 子	
1	Drive the Hot Summer Away	R 32-3C
2	Macleod's Fancy	J 32-4C
3	Miss Florence Adams	S 32-3C
4	The Singing Sands	S 32-3C

9/03 月 担 当	加 藤 沙 弥 子	
1	The Wishing Well	S 32-2C
2	Kinfauns Castle	S 32-5C
3	Luck to Loyne	R 40-5C

10/01 月 担 当	長 峯 真 弓	
1	Lammermuir Hills	S 32-2C
2	May Yarker's Strathspey	S 32-3C
3	The Eael of Mansfield	R 32-4C

ビギナーズ・クラス

8/13 月	担 当	境 雅子・小 杉 由美子	
	1	White Heather Jig	J 40-4C
	2	Ha! Ha! The Woonin' O it	R 32-2C
	3	Lady Lusy Ramsay	S 32-3C
	4	The Summer Assembly	R 88-4C
8/27 月	1	The Stoorie Millor	S 32-3C
	2	Blue Bpnnets	J 32-3C
	3	My Mother's Coming in	R 32-3C
9/10 月	1	Balquider Strathspey	S 32-3C
	2	Lard MacDonald's Reel	R 32-3C
	3	Rothestay Rant	J 32-4C
9/24 月	1	Culla Bay	S 32-4C
	2	Maxwell's Rant	R 32-3C
	3	Mrs Stewart's Jig	J 32-3C
10/08 月	1	The Blackwater Reel	R 32-3C
	2	The Fyket	J 40-3C
	3	Autumn in Appin	S 32-4C
10/22 月	1	Kendall's Hornpipe	J 32-2C
	2	Sugar Candie	S 32-3C
	3	Flowers of Edinburgh	R 32-3C
	4	Sandy O' er the Lea	S 32-2C
	5	The Starry Eyed Lassie	J 32-3C
	6	The Water Reel	R 32-3C

ダンス名に訂正があった為に(5月～7月)を再度掲載します

ビギナーズ・クラス

5/14 土	1	Welcome	J 32-single circle(walk)
	2	Leap Year	J 24-2C
	3	Davy's Locker	R 24-2C
	4	It's Fun to Dance	J 32-3C
5/28 月	1	Sandy O'er the Lea	S 32-2C
	2	Kendall's Hornpipe	J 32-2C
	3	Mr. Watson's Favourite	R 32-2C
6/11 月	1	Lord Eglinton's Reel	R 32-2C
	2	The Thistle	2/4time-3C
	3	The Birks of Invermay	S 32-3C
	4	Scotland	J 32-3C
6/25 月	1	Flowers of Edinburgh	R 32-3C
	2	The Wild Geese	J 32-3C
	3	Monymusk	S 32-3C
7/09 月	1	The Starry Eyed Lassie	J 32-3C
	2	The Dashing White Sergeant	R 32-6dancer RR
	3	Sugar Candie	S 32-3C
7/23 月	1	Mrs MacLeod	R 32-3C
	2	The Braes of Tulliemet	S 32-3C
	3	Berwick Johnnie	J 32-3C

<2007年 スコットランド サマースクールに参加して>

10年ぶりの海外旅行、そして生まれて初めての英語圏の国。
期待と不安で緊張していたのですが、幸い1週目のダンスコースから参加でき、沢山の日本人の仲間に支えられ、リラックスして受講できました。

2週目はいよいよミュージックコースです。
宿泊先の New Hall でも、コースでも日本人は私1人でした。
英語が大の苦手ですが、たとえ話せなくても食事を1人でとるようなことは、ほとんどありませんでした。顔見知りになった人たちが必ず呼んでくれますし、こちらから近づいて声をかければ入れてくれます。皆さん親切ですし、そもそも受け入れることに慣れているという感じを受けました。

授業は David Russel Hall という建物内にある、いくつかの部屋を使いました。
参加者は15名で、ニュージーランド、ベルギー、他はイギリス各地でしょうか。(名札をすべて確認したわけではないので、おおよそです。) 意外と国内の方が多かった印象を受けました。

楽器はアコーディオン3名、フィドル8名、ピアノ(キーボード)3名、リコーダー&クラリネット1名(自分)です。

この週の講師の先生方は、George Meikie(acco.)、Gordon Simpson(fiddle)、Mo-Rutherford(pf.etc.)です。私の担当は Mo さんということになりますが、実際パート別になったのは数回で、この週は合奏中心のレッスンでした。

- * 1日目は午前2コマ、午後2～4時までテキスト1冊を頭からすべて通しました。(さすがに終わりの方のルールでは、目がショボショボしました。)
- * 2日目も全員で通しです。どうやらこの2日間で、とにかく曲に慣れろ!というところのようでした。先生方は、どんな様子かひとりずつ聞きながら見回るといったことをしていました。個人的に質問をすればちゃんと答えてくれますが、各楽器の先生は、個人に対してでなく全体に向けて、演奏上の注意などをしていたようです。
- * 3日目は、数曲を重点的に練習しました。リズム、特に Jig の浮き具合と、Reel のタイトな感じとの違いを、かなり長い時間を割いてやりました。メンバーのほとんどが実際に踊りもやりますが、それでも演奏となると、なかなか難しいようです。Jig のリズムを取るとき、Mo 先生は「ハンプティ、ダンプティ！」と連呼していましたが、拍子の感じをよく表している方法だと思いました。
午後は実際のダンスのクラスで、どのように演奏されているかを見学し、その後は

翌日のグループ別演奏のための練習をしました。

Strathspey は、細かい音符が滑って流れてしまわないよう、意外にゆっくりと、そして堅めのリズムで演奏していました。

- * 4日目 毎晩パーティー(Social Dance)がありますが、この日は生徒が3つのグループに分かれて、プログラムの1/3ずつ演奏します。

各グループ別々の部屋でアンサンブルをしながら、もっと良くなるように意見やアイデアを出し合います。そこへ3人の先生がそれぞれ巡回するという、なかなか面白いレッスン方法でした。

実際の演奏は先生方3名が核となり、そこにグループA、B、Cが入れ替わっていく形で行われました。場所はOld Dinerという少し狭い所でしたが、とても明るい雰囲気です。素晴らしい響きがします。先生との距離も近く音もよく聞こえ、また仲間とともに一緒に演奏している満足感もあり、来た甲斐があったなあ、と思いました。

- * 5日目 土曜の夜”Student’s Union”で最後の本番があるので、そのための練習です。ここはすごく広いので全生徒が舞台上に乗れます。

午前はあわせと各楽器別での練習です。(従って私はピアノの人と一緒に)

午後はダンスのクラスにお邪魔して、ウォーミングアップの部分を、ピアノとアコーディオンの生徒数名が実際に弾くという授業でした。それ以外の生徒は、その授業を見学します。踊りたい人は先生の許可を得て踊っていました。

この音楽は踊りのための音楽ですから、動き初めと終わる(止まる)ところは特に注意が必要です。実際に踊られる方は、その時の様子をイメージしながら、演奏のみされる方はダンサーの様子をよく観察して、どれくらいの時間(長さ)が必要なのかを計算して演奏するように、ということをおっしゃりたかったのだと、思いました。もちろん踊りが始まったら、リズムは揺れることがありますけど、テンポは揺れてはいけません。(ダンサーが踊りにくくなってしまいますから。)

生徒が演奏するのを見学するというのは、一見退屈そうですが、いろんなことが学べます。

この日の夜はケイリー(お楽しみ会)です。

ピアニストとしてスタッフ参加なさっている小海さんが、あらかじめ申し込んでくださったので、運良く出演することができました。いくつかのダンス曲をメドレーで演奏しました。ホールの響きが良いのと小海さんのおかげで、とても気持ちよく吹けました。この場を借りて感謝いたします。

会場にいた方たちもとても喜んでくださり、わざわざこちらにきて声をかけてくれた方もいらっしゃいました。気持ちを伝えるのがとても自然で上手だなあ、と感心しました。私もとても嬉しく、これから続けていく上で、励みになりました。

- * 6日目 夜の本番に向けて、全員で練習です。

パーティーは前半、後半に分かれており、前半は講師陣のみの演奏、後半に全生徒が加わりました。

とても広い会場なので、音響装置の関係上とくに音量の出せないリコーダーはほとんど聞こえず苦労しました。他と異なる音色を持つ楽器ですので、マイク1本欲しかったです。その点においては残念でした。

でも全員で演奏した、ということでは楽しかったですし、記念になりました。

これで全てのプログラムが終わったわけですが、director の John 氏の部屋にミュージックコースの関係者が招かれて乾杯し、ひとしきり話した後、コースの生徒達だけで、思い出の練習場へ集まりました。

そのあと音出しのできるどころへ移動して、別れを惜しみながら飲めや歌えや楽器演奏するわ、のホンモノ!のケイリーが始まりました。

結局午前2時くらいまでずっとやっていました。

参加した中で、おそらく最年少だったこと、英語が苦手だったこと、それにスコティッシュ・ダンス・ミュージックとしては珍しい楽器で参加したこともあり、皆さんよく構ってくださいました。

また、演奏することを聞いて、踊りに駆けつけてくださった日本の皆さん、どうもありがとうございました。とても心強かったです！

初めてのスコットランドで、サマースクールのミュージックコースに思い切って飛び込めたのは、いつも一緒に踊っている仲間や、お世話になっている諸先生方の応援があったから実現したことです。また、いろんなことを経験させて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

これから、少しずつですが曲を増やして、皆さんが踊っていてより楽しくなるような演奏を、心掛けていこうと思います。そしてこのレポートが楽器を演奏される方の、サマースクールへの興味と参考に少しでもなれば幸いです。

今回参加してみて、もう少し言葉がわかるようになってから、また参加したいなあ、と思いました。

青山 るり

新 CD・ブック紹介 (トム鳥山)

Music for Book 13 (RSCDS CD059) by Neil Barron and his Scottish Dance Band

The Duran Ranger (8x32R), Miss Cahoon's Reel (8x48J), Mrs Stuart's Strathspey (8x48S), Barley Bree (4x40J), The Highland Reel (5x32R), A Kiss for Nothing (8x32J), The Nether Bow has Vanished (8x48S), Fly not yet (8x48J), Strathglass House (8x32S), The Reel of the 51st Division (8x32R), Bridge of Nairn (8x32S), Ladies' Fancy (8x32J)

Book 13 は 48 小節のダンスが 4 つもあって、旧録音の RSCDS カセットでも 2 巻構成であった。ニール・バロン楽団によるこの CD の演奏時間合計は正味 80 分、1 枚では収まりきらないため、2 枚組となっている。第 2 次大戦終了の翌年に出版された Book 13 は Victory Book と名付けられており、CD の体裁も Book に合わせて “V” の文字が描かれている。

ニール・バロン楽団の演奏は軽快で、The Duran Ranger や Ladies' Fancy など早く動けとせかされるようなダンシングになる気がするが、そんなことはなく、4 分 40 秒台と当節の標準的な演奏時間である。〔注文略号 : Book 13 CD〕

Music for Book 34 plus 3 Dances 2006 (RSCDS CD060) by Ian Muir and his SD Band

C'est l'Amour (8x32J), Royal Albert Country Dance (8x32R), Glasgow Lasses (8x32S), Neil Gow's Farewell to Whisky (5x48R), Over the Water to Charlie (8x32J), New Scotia Quadrille (2x48R), Couteraller's Rant (8x32S), Open the Door to Three (8x48J), New Scotia Quadrille - Encore (2x48R)

The Craven Jig (4x32J), Jean Martin of Aberdeen (3x32S), The Inimitable Derek (8x32R)

イアン・ミュアというアコーディオン奏者は 2 人いて、1 人はロンドンなど英国南部で活躍しているバンド・リーダー、もう 1 人がこの CD のスコットランドのイアン・ミュアである。ソサエティは Book 31 以降、新創作ダンスの出版に方向を移したが、そのなかで Book 34 はトラディショナル・ダンスばかりを集めたブックであり、したがって踊られる機会のないブックでもある。

終わりの 3 曲は 2006 年に出版されたダンスの音楽である。では、マガジン第 1 号に発表されたアイリーン・ワットにちなむダンスの音楽はどうなるの？と思う。

イアン・ミュアの演奏と録音はシャープで、思わず体が動き出すようなリズム感がある。スコットランド各地のダンス会で長年演奏しているかれは、ダンサーをその気にさせるつぼを心得ているのであろう。〔注文略号 : Book 34 CD〕

Platinum – 70 Years of Dancing in St Andrews (SBJ0701) by David Cunningham and his Band

The St Andrews Platinum Reel (8x32R), The Chairman's Chain (4x32J), Irene Bennett's Strathspey (8x32S), St Andrews Welcomes Prince William (4x32J), The Bejant Royal (8x48R)

Roundabout (8x32J), The Flag of Saint Andrew (4x(32R+32S)), The Snibbet Bibliothek (8x32R), Elizabeth Thomson of St Andrews (6x32S), The Square Tower (1x64R), Lammas Market/Charlie's Silver Jubilee (4x32S), Georgie's Jig (4x32J)

金は 50 周年、ダイヤモンドが 60 周年をあらわすのは知っていたが、プラチナが 70

周年の代名詞とはこの CD ではじめて分かった。2007 年のセント・アンドルーズ・ブランチ 70 年を記念して作られた CD である。すべてのダンス説明がついている。

はじめの 5 ダンスが 70 周年記念ダンスで、デビッド・カニングム楽団が演奏しており、Roundabout からあとのダンスは 50 周年記念のダンスと音楽を再録していて、こちらのほうは父カニングムと故ロン・ゴネラ（フィドル）の双頭バンドによる演奏である。デビッド・カニングム楽団は第 1 級のバンドの評価どおり手堅い演奏でまとめている。ロン・ゴネラは名手といわれた人であるが、スコットランドにおける CD 時代の幕開けに亡くなったため、CD は残されていない。ロン・ゴネラの演奏が鮮明な音で聞ける CD である。〔注文略号：プラチナム CD〕

RSCDS Book 21 – 2007 Edition

ブック 21 の改訂版である。A4 サイズとなり、基本的な記述は旧版とかわりがないけれども、ステップ・アップのタイミングや踊り方の説明などがより明確になっている。〔注文略号：ブック 21 (2007)〕

RSCDS Miss Milligan’s Miscellany – 2007 Edition

いままでのミス・ミリガンズ・ミセラニーは 2 分冊となっていたが、2007 年版は 77 ダンスが 1 冊にまとめられた。最新用語に改められ、ほとんどのダンスにオリジナル音楽が指定された。サイズは A5。〔注文略号：ミセラニー (2007)〕

New Glenshee Collection of SCD devised by James Cosh

ジミー・コッシュのグレンシー・コレクションは長らく絶版となっていたが、スコットランドのモリーン・ダニエルの超人的な努力で 22 ダンスが新たな形で出版された。コッシュの記述法は簡単すぎ、どういう動きなのか日本人には理解しがたいところがあった。新版ではダイヤグラムが図示されていて、これを補うことができる。〔注文略号：グレンシー・ブック〕

以上の商品のご注文は…… 郵便振替 00240 - 0 - 63517 東京ブランチ

Book 13 CD	¥3,300
Book 34 CD	¥3,300
プラチナム CD	¥3,600
ブック 21 (2007)	¥1,800
ミセラニー (2007)	¥1,800
グレンシー・ブック	¥1,800

締切り 12月14日(金)

お渡し予定 1月末 担当 荒井千文 T/F 049-247-5468

グループ行事案内

☆ 東京スコットランドダンスを楽しむ会

Year End Ball

日 時 2007年12月9日 (日) 13:00～17:00
会 場 日本出版クラブ会館
申込み期限 11月末日
問い合わせ 福島チイ子 03-3330-2845

☆ 埼玉ランチ

New Year Party

日 時 2008年1月20日 (日) 13:00～16:15
会 場 進修館 東武伊勢崎線 東武動物公園下車
問い合わせ 佐藤雅紀 048-885-1894

☆ 葛飾スコティッシュカントリーダンスクラブ

創立22周年パーティ

日 時 2008年3月23日 (日) 10:00～16:00
前半 ミニ講習会 後半 パーティー
会 場 葛飾区総合スポーツセンター 「エイトホール」
(昼食は各自持参して下さい)
問い合わせ 尾身信晴 03-3697-5838